

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年 1月 日

協議会名: 中井町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>神奈川中央交通西株式会社</p>	<p>運行系統名: 中井町オンデマンドバス (通称:中井ふれあいバス)</p> <p>運行区域: 中井町内全域(乗降ポイント119箇所)及び一部町外(乗降ポイント1箇所)を対象としたデマンド型交通システム(区域運行型)</p> <p>運行日:月曜日～金曜日</p> <p>運行時間:7時～19時</p> <p>運賃: 町内 大人200円、小人100円 町外 大人400円、小人200円</p>	<p>オンデマンドバスは目的でなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのかを明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討すべきであるという評価結果を受け、65歳以上の方及び妊産婦が買い物等の重い荷物を持つての移動を支援するため、これまで120か所の乗降ポイントのみでの降車しかできなかったものを、65歳以上の方及び妊産婦については各々の希望の降車ポイントでの降車ができるサービスを令和5年度から実施するための、制度設計、現地調査、利用対象者の希望降車ポイントの設定を行った。令和4年10月より実証実験を開始した。</p>	<p>A</p> <p>16歳未満及び65歳以上の利用率が51.5%、交通空白地域を含む移動の利用率は43.5%となっており、通学者、高齢者の、交通空白地域等の地域のニーズに対応できていると考える。引き続き、利用者の属性や利用目的、利用状況等进行分析し、実態に合わせた運行体制の構築の検討を行っており、計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。</p> <p>目標:利用者数 42人/日 実績:利用者数 31人/日 分析:コロナ禍での利用控えの状況が回復出来なかったことの原因によるものと考えられる。</p> <p>しかし、交通空白地域の在住者、高齢者及び児童生徒など本来救うべき移動手段の無い人等が利用しやすい環境が保たれているものと考えられる。</p> <p>また、登録者数も微増で推移しており、路線バスを補完する移動手段としては一定程度の利用が維持されている。</p>	<p>現行の運行体制で、交通空白地域の在住者や交通弱者等が利用しやすい環境が一定程度維持されているが、コロナ禍で落ち込んだ需要が回復しない状況である。</p> <p>高齢化の進展等へ対応すべく、高齢者等が安全かつ安心して利用できる生活交通の確立のため、令和5年度で実施する希望降車ポイント制度の実証実験の検証等を進め、費用対効果を鑑みながらサービス向上に努めていく必要がある。</p> <p>引き続き、路線バスを補完するフィーダー的役割を担っているオンデマンドバスの安定的な運行を図るとともに、障害や年齢などに関係なく、誰もが安心・快適に移動できるしくみを検討し、町の交通網全体を機能的なものにしていくことを目指す。</p>